

農と食と人と地域をつなげる

参加費無料

農村体験交流 フォーラム2016



～学校はいま農山漁村の持つ教育力を求めている～

近年の教育旅行は地域の自然や歴史、文化、そして地域の人との交流を目的にした旅行に変わってきています。国でも、子どもたちの学ぶ意欲や自立心、力強い成長を支える教育活動として小学生を対象とした長期宿泊滞在を推進する「子ども農山漁村交流プロジェクト」を行っています。教育現場が求める交流体験について、そして未来の子どもたちに引き継ぐ農村の役割や価値について、その可能性を探ります。



日時

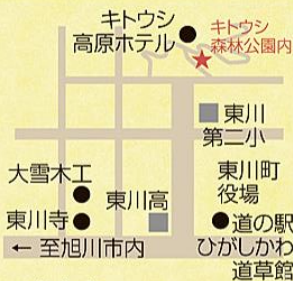
3月25日(金)

13:30～16:00(受付13:00～)

場所

森林体験研修センター

(東川町西4号北46 ☎0166-82-2632)
キトウシ高原ホテル手前



〈対象〉農家、受入関係者、観光関係者、
教育関係者ほか関心のある方なら誰でも参加できます

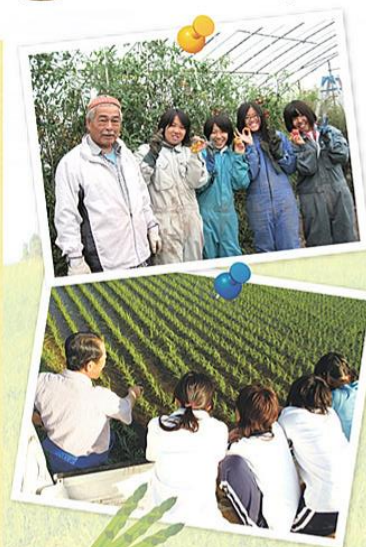
〈定員〉50名 〈締切〉3/23(水)会場の都合により定員になり次第締切

【お申し込み・お問合わせ】

事務局:有限会社アグリテック 東川町進化台781-6

TEL 0166-82-0800 FAX 0166-82-3040 メール yoyaku@agtec.co.jp

※参加希望者は氏名(ふりがな)、所属、役職、住所、電話番号、FAXをお知らせ下さい。電話、メールでも受付可能です



【第1部】基調講演

テーマ

教育現場はいま農村体験を求めている
～子どもも地域も農家民泊で大きく成長する

講師 小野達也 氏(新潟県胎内市 前教育長)

胎内市において、子どもたちを「地域でしっかり育てる」という考えのもと、子どももふるさと体験学習プランをつくり全校で実施。その仕掛け人の小野氏が、特に「農家民泊が重要」と説くその理由とは。



テーマ

修学旅行で農家民泊を取り入れる理由

講師 松石昇 氏(兵庫県宝塚市・雲雀丘学園高校教頭)

平成17年に受け入れをはじめ10年以上、毎年継続的に修学旅行で農家民泊を取り入れている。体験交流だけでなく、秋には受け入れ地域の農産物をバザー等で販売したり、人とモノの交流につながっている。毎年修学旅行で農家民泊をおこなう理由とは。



【第2部】トークセッション

テーマ

「子どもの未来×農村の役割」

なぜ学校や教育現場は農山漁村での体験活動を求めているのか。子どもたちにとって地域の歴史や文化、自然とのつながり、そして農業・農村の持つ魅力や役割について探ります。

〈ゲストスピーカー〉 ■小野 達也 ■松石 昇
■中田 浩康 (有限会社アグリテック代表取締役)
■荒井 一洋 (NPO大雪山自然学校代表理事)

(敬称略)

主催 ひがしかわ子ども農村体験交流推進協議会

共催 ひがしかわグリーンツーリズム推進協議会

後援 農林水産省、環境省北海道地方環境事務所、東川町

※農林水産省平成27年度「都市農村共生対流総合対策交付金事業」の一環でおこなうものです

ひがしかわ子ども農村体験推進協議会
事務局:有限会社アグリテック 行

農と食と人と地域をつなげる

農村体験交流フォーラム 参加申込書

以下必要事項を記入のうえ、この用紙をFAXしていただくか、
電話もしくはE-mailにて下記の項目についてお伝えください。

記入日 平成 年 月 日

	氏名 (ふりがな)	所 属	役職等
①	ふりがな _____		
②	ふりがな _____		
③	ふりがな _____		
住 所	〒 _____		
電話番号		FAX	
メー ル			

ご記入いただいた個人情報、当協議会で管理し協議会主催の関連情報の提供の経路使用する場合もあることとし、それ以外の目的では使用いたしません。

お問い合わせ
お申し込み

ひがしかわ子ども農村体験交流推進協議会 事務局:有限会社アグリテック
北海道上川郡東川町進化台781-6

TEL 0166-82-0800 FAX 0166-82-3040 メール yoyaku@agtec.co.jp